

2019年（令和元年）9月9日（月）－13日（金）



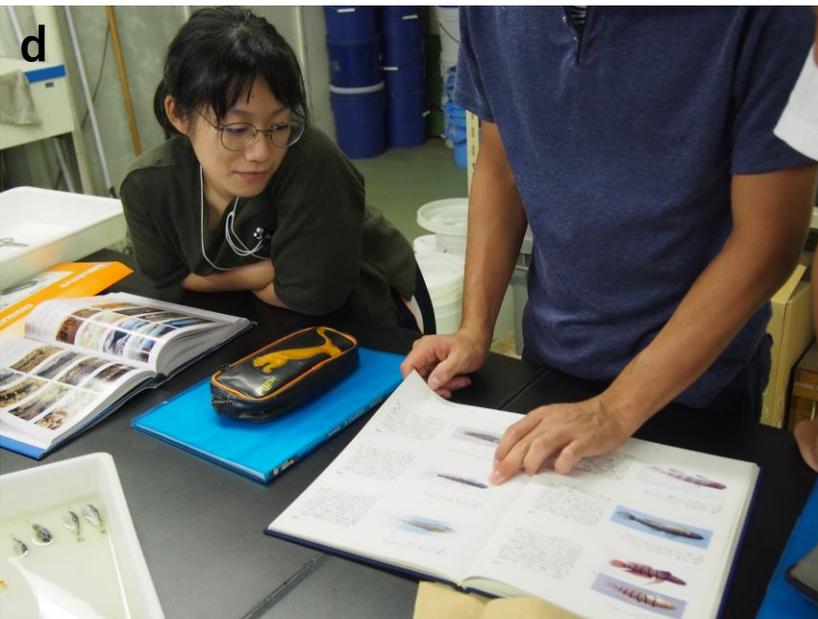
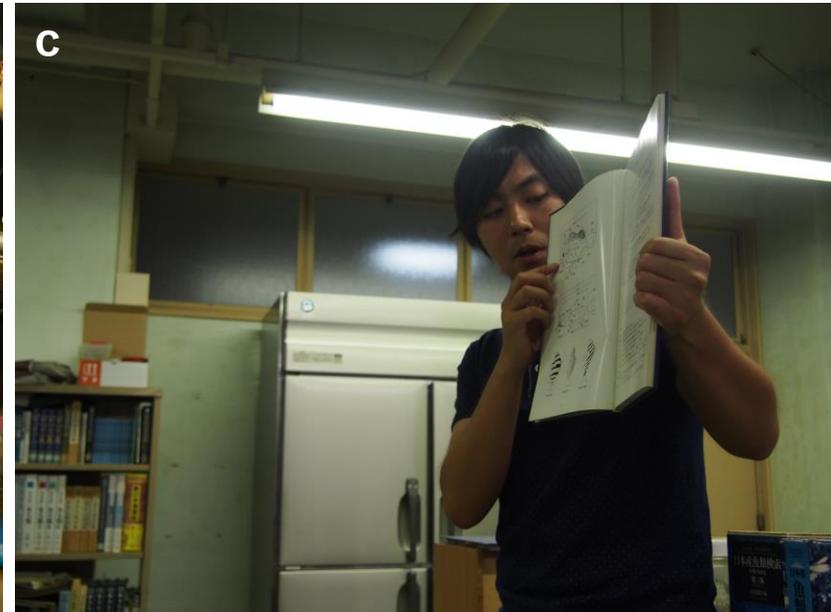
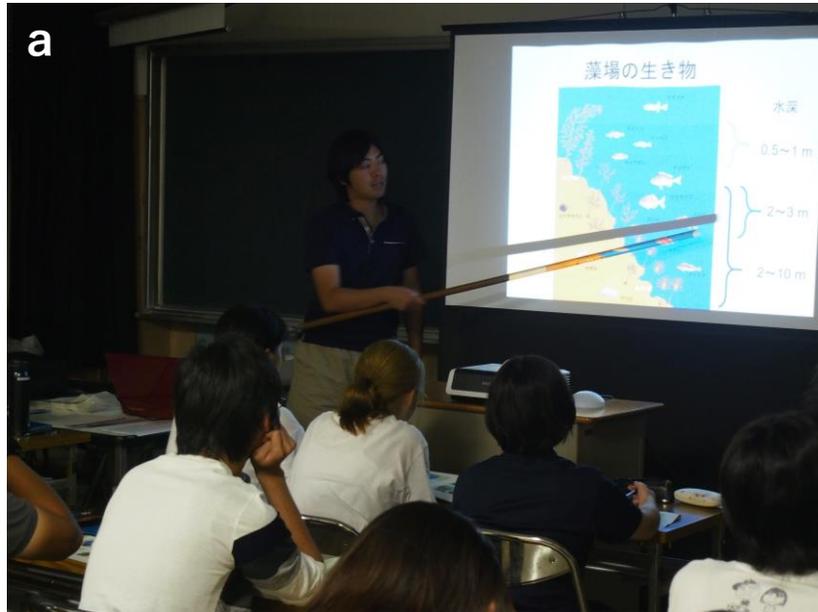
臨海資源科学演習および臨海生物生産学実習が竹原ステーションで行われました。中国・四国国公立大学の学生11名、ならびに広島大学生物生産学部の学生21名が参加しました。

瀬戸内海中央部におけるプランクトン、底生生物（無脊椎動物、海藻類）、魚類、共生生物の様々な採集方法（小型船舶も使用する）及び個体識別、同定、標本処理などの技術を学んだ上で、それらの形態、分類、発生、行動、生態に関するデータの取り方、解析、解釈の技能、知識を培う目的で行われています。また、外部講師による世界の海洋環境に関する講演によっても視野を広げることを目的としています。

9月9日（1日目 午後）

竹原ステーションが所有する実習船「からぬす丸」で生野島に渡り（a）、地引網実習が行われました（b-d）。





9月9日 (1日目 夕食後)  
近藤助教による藻場の生き物についての講義が行われた (a, b) 後、実験室に移動し地引網で採集した魚類の種同定が行われました (c-f)。

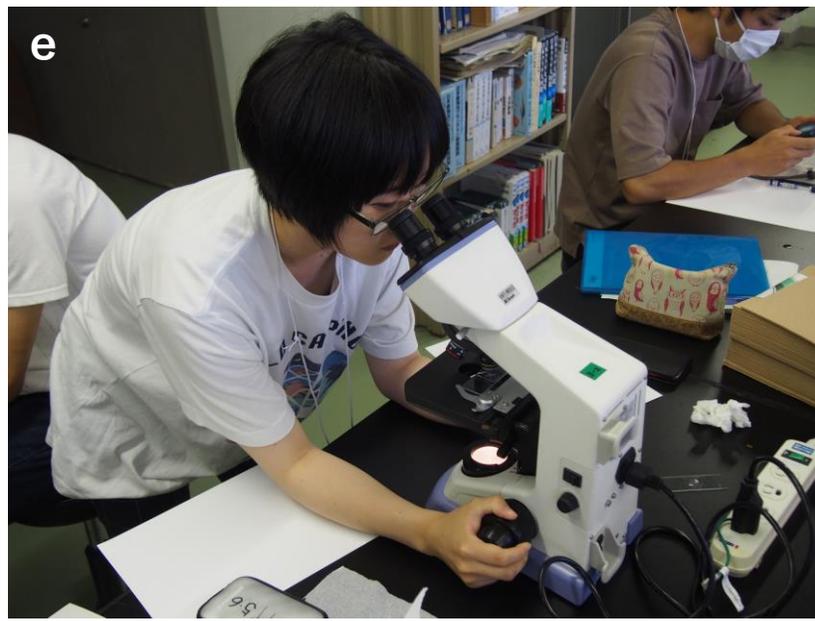
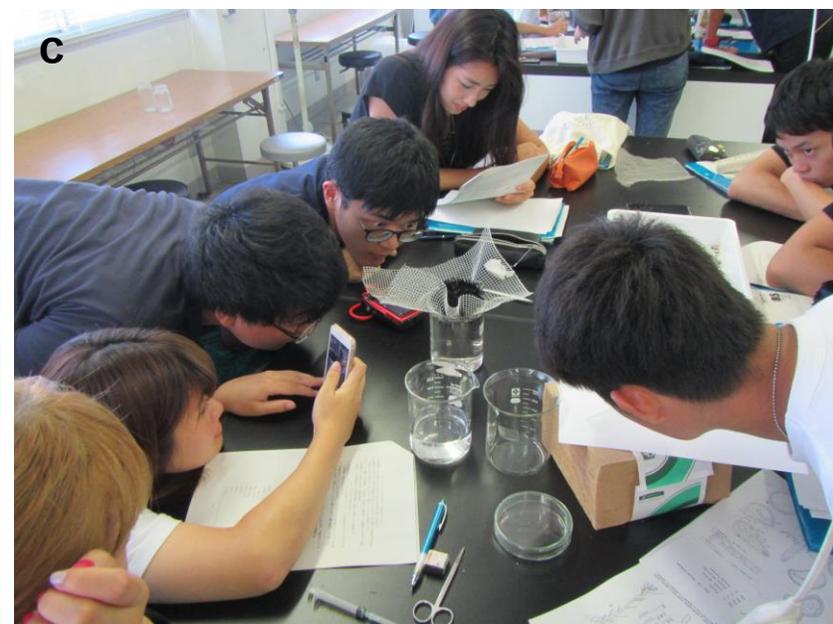


9月9日 (1日目 夕食後)

地引網で採集した魚類の種同定 (a) が終了した後、マダイの消化管内容物の観察が行われました (b-e)。また、種同定した魚種を班ごとに黒板に書きだすことにより班間で情報の共有化が図られました (f)。



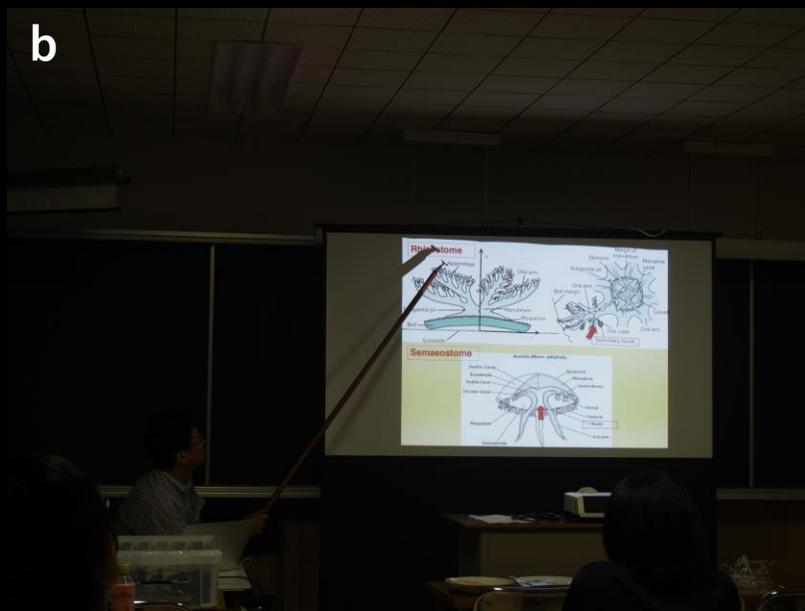
9月10日 (2日目 午前)  
大塚教授による「稚魚・魚卵の生態」についての講義  
が行われました (a-c)。講義終了後、実際に様々な魚  
種の稚魚と魚卵の観察が行われました (d)。



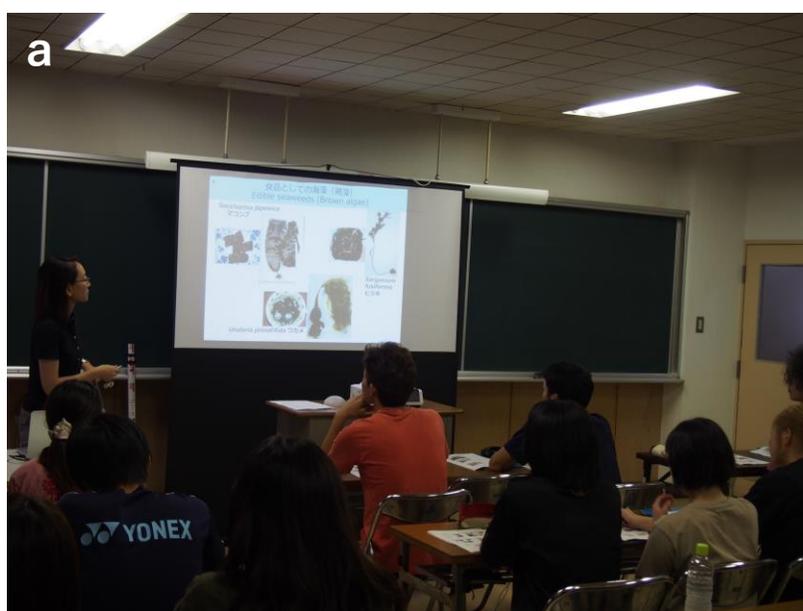
9月10日 (2日目 午後) 若林准教授による講義 (a) とムラサキウニを用いた発生実験が行われました (b-f)。棘を切除した (b) 後、得られた卵と精子 (c) を人工授精させ (d)、受精卵の発生過程を経過観察しました (e)。また、接眼レンズマイクロメータを用いて計測も行われました (f: 実習生にマイクロメータの読み方を説明するTA)。



実習期間中、朝食と夕食は実習生らが自分たちで協力して調理しました。



9月10日 (2日目 夕食後)  
大塚教授による「プランクトンと人間の関わり」についての講義が行われました (a-f)。講義中、「中華クラゲ」や「サクラエビ」が実際の出され、実習生らはそれらを食し、自らの舌で体感しながら講義を聞いていました (c-f)。



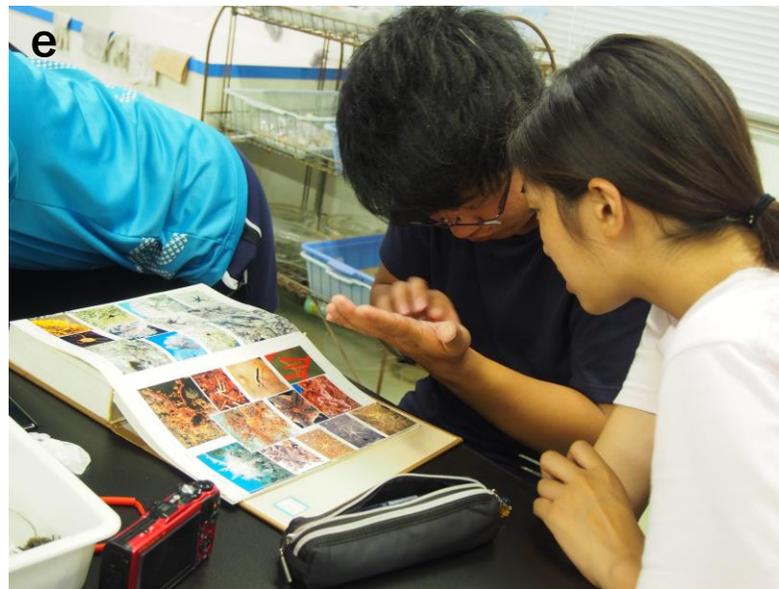
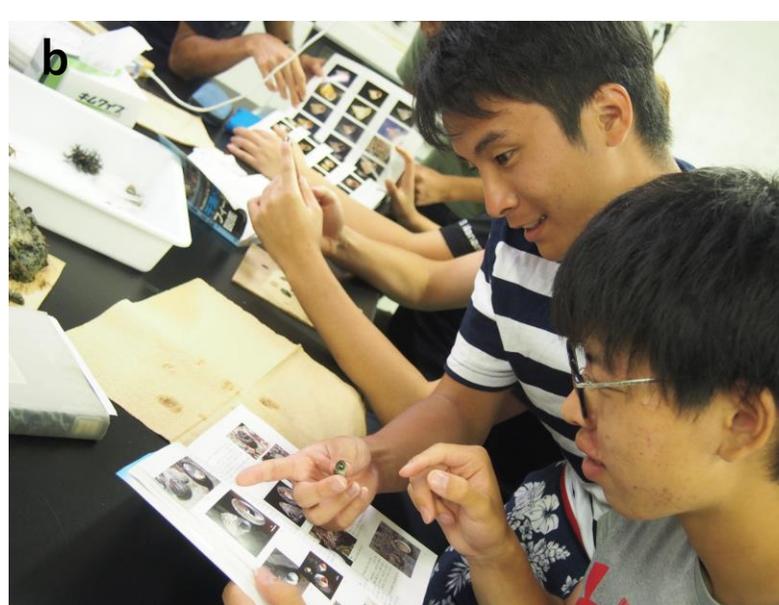
9月11日 (3日目 午前)  
加藤統教授による海藻学の講義が行われました (a, b)。講義後、テングサから寒天を作成する実習 (c, f) と海藻の吸光度を測定する実習が行われました (d, e)。海藻 (e-1) を吸光度系のセルの側面に貼り (e-2, 3)、吸光度計で測定しました (e-4)。



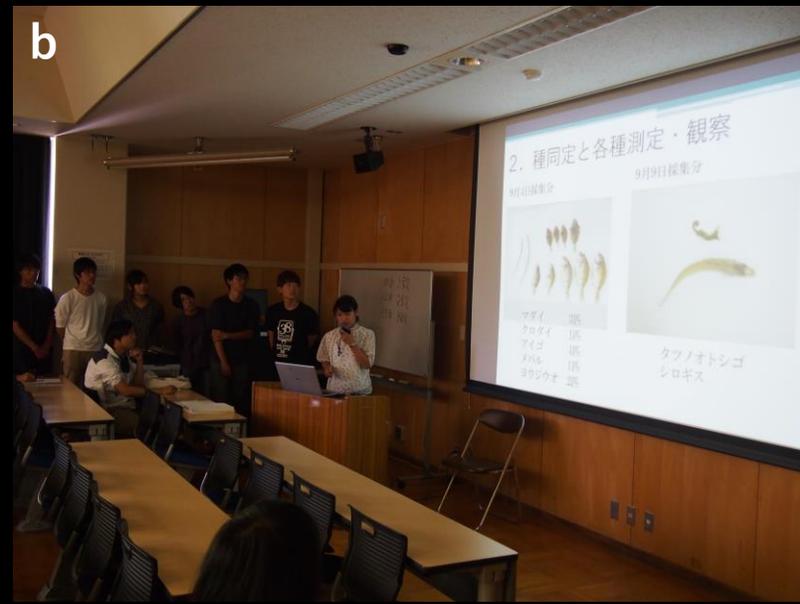
9月11日 (3日目 午後)  
プランクトン採集 (c) と観察実習が行われました。  
幼生・終生プランクトンについて、それぞれ10種のスケッチが行われました (a, b, d, e)。  
大型プランクトンであるクラゲ (ユウレイクラゲ) も採集され実習生に見せられました (f, f-1, f-2)。



9月12日 (4日目 午前)  
近藤助教と岩崎技術職員によるシュノーケリング実習が行われました。



9月12日 (4日目 午後 - 夕食後)  
生野島でのフィールドワーク実習が行われました (a)。コドラート調査、ハイスタッフ調査、およびベントスの採集が行われました。また、採集されたベントスは持ち帰り、種同定が行われました (b-f)。



9月13日 (5日目 午前-午後)

4日間の実習を班ごとにスライドにまとめ、発表しました (a-d)。全日程終了後 (発表会后) 大塚教授から実習生にそれぞれに終了証等が手渡されました (e)。午後からは日本カブトガニを守る会 福岡支部顧問 林 修様 と同会福岡支部支部長 高橋 俊吾様を講師に招いた講演会が行われました (f)。